

〈シリーズ〉

# わが校の 取り組み・ 私の工夫

第18回

—授業力向上の取り組み 編—

このシリーズでは、主に高等学校の取り組みや、個々の先生方の実践事例を紹介する。今回のテーマは「授業力向上への取り組み」。習熟度別少人数指導の研究をきっかけとして教科ごとに授業の展開・手法の共有を進めている石川県立野々市明倫高校と、校長が強力なリーダーシップを発揮し、全教員の授業力向上を目指している開智未来中学・高等学校の2校の取り組みを紹介する。

## Contents

- ◆学校事例 石川県立野々市明倫高等学校 …………… P50
- 開智未来中学・高等学校 …………… P54

学校事例

## 石川県立野々市明倫高等学校



### 「明倫スタンダード」・「明倫メソッド」の構築により授業内容と手法を標準化する

金沢市のベッドタウンである野々市町に位置する野々市明倫高等学校は、2009年度から3年間、石川県の学力向上実践モデル事業の指定を受け、『習熟度別少人数指導の効果的指導法』に関する研究を進めている。

効果的な指導法を模索する中、習熟度別授業を実施している国語、数学、英語に関して到達目標を示す同校独自の習熟ラインを設定し、共有した目標を達成するための授業手法を構築することとなった。

習熟度別授業の研究を機に、さらに授業力を追求する同校の取り組みを、副校長の井戸章彦先生、主幹教諭の諸角敏彦先生、進路指導課課長の卯野一郎先生(数学)、第1学年主任の福島淑高先生(数学)、第2学年主任の北村幸恵先生(国語)、英語科主任の杉本憲子先生に伺った。

#### 授業内容・授業手法の共有・標準化をめざす

野々市明倫高校では選抜クラスを設けており、それ以外の各クラスでは、国語、数学、英語で、基本的なB(ベーシック)と標準的なS(スタンダード)の2展開で授業を実施している。例えば、第1学年は7クラスのうち2クラ

スを選抜クラスとしており、残りの5クラスでは、各クラスを2分割して『国語総合』の古典分野、『数学I』、『英語基礎』の授業を行っている。BクラスとSクラスでは、扱う副教材の量や問題の難易度などが異なる。

同校では以前より少人数・習熟度別授業を取り入れてきたが、県の学力向上実践モデル事業『習熟度別少人数指導の効果的指導法の実践研究』に指定されたことをきっかけとして、それをさらに効果的に実施しようとした。

「研究テーマを定めるにあたって課題を整理したところ、BクラスとSクラスそれぞれの指導目標を明確化して共有し、授業内容や授業手法を標準化することで、少人数・習熟度別指導をさらに効果的に展開しようということになったのです」(卯野先生)

そこで、教科の授業内容を同じレベルに揃える「教員のための指針」とする「明倫スタンダード」を策定。そしてそれを実現するための具体的な授業の展開・手法を共有し、標準化することを目指した「明倫メソッド」の構築を模索している。つまり、授業の内容についての目安が「明倫スタンダード」で、授業の手法についての目安が「明倫メソッド」となっている。

なお、「明倫スタンダード」「明倫メソッド」の構築は、



井戸章彦先生



諸角敏彦先生



卯野一郎先生



福島淑高先生



北村幸恵先生



杉本恵子先生

各教科が独自に進めている。「全教科で形式を統一するべき」という意見もありましたが、各教科の『スタンダード』や『メソッド』を有効に運用させるとともに、作成が過重な負担になることを避けるため、各教科の特徴や課題に合わせて作成することにしました(卯野先生)

各教科とも「明倫スタンダード」は構築しつつあるが、「明倫メソッド」については作成段階にあり、研究指定3年目の今年度中に確立しようと研究中である。以下、各教科の「明倫スタンダード」と「明倫メソッド」の作成状況を、第1学年の科目を中心に紹介しよう。

**国語 過去のプリントや指導案を再確認し 指導内容と授業の手法を標準化する**

「古典の『明倫スタンダード』<図表1>は、過去に蓄積された膨大な課題プリントを見直すことから始めました」と、北村先生は説明する。まず、国語科の教員がそれぞれ保有していた小テストや授業用プリントを出し合い、教材に対応させて、指導すべきポイントを精選し明確化した。さらに、そのポイントをどのような順で取り上げどう組み立てれば一連の流れが生まれるかを模索し、1年間の学びのストーリーを作成した。

具体的には、1年間で定期考査で5期間に区切り、教科書教材に対して用いる副教材を示すと

もに、重点的に指導する内容を明文化し、古典を担当する教員すべてが到達目標ラインを周知徹底できるようにまとめた。その際、單元ごとに『留意点』を設け、到達目標に至るまでの指導内容のポイントをさらに具体的に提示し、指導の質が教員によって異ならないよう配慮した。

「明倫スタンダード」が示されたことで、要求水準に全生徒を到達させるという目標が定着し、教員の意識は変わってきたという。「形式的になりがちだった小テストが授業理解の確認のバロメータとなり、例えば理解の遅い生徒がいれば放課後の指導を行うようになりました(北村先生)

また、指導内容が明確になったため、授業の予習についても、何を、どこまですべきか生徒にきちんと指示ができるようになったのも大きな成果だ。同校では日ごろから家

<図表1>国語総合(古典) 明倫スタンダードより  
《1学期中間考査までの学習》—少人数授業—

| 月 | 教科書教材   | 副教材  | 重点指導事項  |
|---|---|--|---|
| 5 | 「絵仏師良秀」   | 完全マスター古典文法<br>p 6～p 13<br>古典文法準拠ノート<br>p 2～p 3   | ・歴史的仮名遣い<br>・主語の確認<br>・古文単語の意味<br>・係り結びの法則                    |
|   | (留意点)<br>・1学期は、教科書教材に関してはあくまでも読解中心に指導する。<br>・作中人物の言動や心理、筆者の意図をしっかりと読み取らせ、古典作品の面白さを感じとらせる。<br>・文法事項の学習がまだ進んでいない段階なので、逐語訳は求めない。                         |  |   |
|   | 「訓読に親しむ」一・二<br><br>動詞の文法  | 漢文必携 p 8～p 21<br>力をつける漢文<br>p 4～p 7<br>完全マスター古典文法<br>p 14～p 31<br>古典文法準拠ノート<br>p 4～p 9 | ・返り点、送り仮名<br>・書き下し文(置き字、再読文字)<br><br>・九つの活用の種類を見分けて、活用表を完成させる |
|   | (留意点)<br>・文法学習にあたっては、教師による説明よりも、問題演習による習熟を中心とする。<br>・動詞の九種類の活用パターンは、繰り返し暗唱させ、徹底して身に付けさせる。<br>・活用の種類の識別方法も、十分に定着させる。<br>・学習内容は「完全マスター古典文法」にしっかりと記録させる。 |  |   |
|   | 「漁夫之利」  | 新国語便覧p378  | ・音読<br>・書き下し文<br>・寓話の面白さ<br>・故事成語の意味と成り立ち                     |
|   | (留意点)<br>1学期は、訓点の扱いに習熟し、難なく音読でき、書き下し文が正しく作れることを目指す。<br>日常生活で用いられることの多い故事成語について、理解を深めさせ、漢文に興味を持たせる。  |  |   |

庭学習時間を調査しているが、古典の予習実施率と時間は、大半の生徒が増加したという。

「明倫メソッド」については、授業手法の確立のために、まずは過去の指導案を検証しているところである。「研究授業の整理会（反省会）」では多様な授業をお互いに学び合い、漢文や現代文に応用できないか、全教員ができるようにするためにはどう加工したらいいか、私だったらこう工夫する、といった観点から研究授業を深く考察しています」（北村先生）

こうした考察内容を指導案とともにパソコンの共有フォルダに保存し、メソッドの確立に向けて検討を進めているところだという。

**数学 問題を蓄積し到達目標を具体的に示す**

数学科では、問題そのものが「明倫スタンダード」の水準を示す<図表2>。全教員が当番制で「スタンダード」の作成に関わっており、各章1～2枚のプリントに問題をまとめている。

「数学は学力差が出やすい教科です。だから、明倫生としてここまでは理解してほしい、絶対に解いてほしいというラインが必要でした。そこで、『数学I』では具体的な

問題を例示しています」（卯野先生）

「Bクラスであればここまで、Sクラスはこれも、といった必要最低限の水準を教員が理解、共有し、生徒がそれぞれの到達目標に達するよう授業をする必要があります。毎週開かれる教科会では、設問の一貫性、難易度、着眼点に注目しながら单元ごとに到達目標を精査し、改善を行っています」（福島先生）

なお、数学の「明倫スタンダード」もあくまで教員の目線を合わせるために用いるものであり、生徒向けのプリントとして使われることはない。

「明倫メソッド」の構築に向けては、生徒に与える問題を蓄積し共有しているところだ。「Bクラス、Sクラスの到達目標に照らし合わせて、生徒の理解が不足していると感じた单元や、授業で十分に扱えなかった箇所を設問にして共有化しています。そうして、到達目標を満たすために、どう教えればよいのか、検討しているところです。現在は、ここで蓄積した問題を自習の課題などに活用しています」（卯野先生）

**英語 4分野の到達目標を定め 授業の組み立てのモデルを示す**

英語科では、3年間を見通した教育計画を立てるところから「明倫スタンダード」の構築が始まった<図表3>。

「卒業時の到達目標を設定し、到達するためにどうしたらいいかを逆算して考えました。これまでは文法に力を入れる教員、会話を重視する教員、と教員によって指導の内容が変わっていましたが、生徒に『聞くこと』『話すこと』『読むこと』『書くこと』をバランスよく身に付けさせるために、4分野それぞれに目標を設定しました」（杉本先生）

習得語彙数や、英語検定試験の合格を到達目標として挙げるなど、客観的に判断しやすい到達の目安も設けた。

「明倫メソッド」については、具体的な授業の組み立てにも言及している。

「授業の時間配分については、まず復習5分、次にペアワーク10分…といった授業の組み立てのモデルケースを示し、多種多様な学び方を全教員が取り入れ、授業改善の手掛かりにしたいと考えています」（杉本先生）

また、到達目標をチェックするための小テストを1年(30回)分作成。さらに、覚えさせたい英語構文を100個選んで『明倫構文100』と名付けた共通プリントを作成するなど、副教材でも足並みを揃えるように心掛けている。

<図表2>数学I(2次関数) 明倫スタンダードより

| 明倫スタンダード 2次関数  |  |
|--|--|
| 1. [2次関数のグラフ]  |  |
| 2次関数のグラフを描くことができ、その頂点と軸が求められることができる。   |  |
| (1) $y = -2x^2$  |  |
| (2) $y = -2x^2 + 2$  |  |
| (3) $y = 2(x-2)^2$   |  |
| (4) $y = -2(x-2)^2 + 3$  |  |
| (5) $y = 3x^2 - 6x + 2$  | (S5) $y = -3x^2 + 4x + 4$                  |
| (6) $y = \frac{1}{2}x^2 + 2x$  | (S6) $y = (2x+1)(x-2)$                     |
| 2. [2次関数の最大・最小]  |  |
| 次の2次関数に最大値、最小値があれば、それを求めよ。   |  |
| (1) $y = -3x^2 + 10$   |  |
| (2) $y = x^2 + 2x - 3$   |  |
| (3) $y = -2x^2 - 8x + 5$   | (S3) $y = -x^2 + 5x - 7$                   |
| (4) $y = -x^2 - 6x - 4$ ( $-5 \leq x \leq -2$ )                                | (S4) $y = x^2 - 3x + 1$ ( $1 < x \leq 3$ ) |
| 3. [2次関数の最大・最小の応用]   |  |
| 関数 $y = 3x^2 - 6ax + 2$ ( $0 \leq x \leq 2$ ) の最大値および最小値を、次の(1)~(5)の場合について求めよ。 |  |
| (1) $a < 0$  | (2) $0 \leq a < 1$                         |
| (3) $a = 1$  | (4) $1 < a \leq 2$                         |
| (5) $a > 2$  |  |
| (S3)   |  |
| 関数 $y = x^2 - 2x - 1$ ( $0 \leq x \leq a$ ) の最大値および最小値を、次の(1)~(4)の場合について求めよ。   |  |
| (1) $0 < a < 1$  | (2) $1 \leq a < 2$                         |
| (3) $a = 2$  | (4) $2 < a$                                |

※1桁問題はSB共通、Sのついた番号はSクラス問題

<図表3>英語科 明倫スタンダードより

| 学年             | 第一学年  | 第二学年   | 第三学年  |
|----------------|---|--|---|
| 科目名            | 英語Ⅰ<br>英語基礎   | 英語Ⅱ<br>英語W   | 英語研究(長文読解)<br>英語W   |
| 「聞くこと」         | 使用テキスト:「over all」<br>・ALTの簡単な質問に答えられる。<br>・英検3級程度のリスニング問題に答えられる。  | 使用テキスト<br>・英検準2級程度のリスニング問題に答えられる。  | 使用テキスト<br>・英検2級程度のリスニング問題に答えられる。<br>・センター試験のリスニング問題で平均点以上を取れる。  |
| 「話すこと」         | 【1学期の目標】<br>自分自身に関することを英語で話すことができる。<br>【2学期の目標】<br>自分の意見とその理由を英語で述べるができる。<br>【3学期の目標】<br>日本以外の国に関心を持ち、グループでその国について調べ、英語で発表する。                           | 英語Ⅱ:<br>各レッスンの要約を口頭で言えるようにする。  |   |
| 「読むこと」         | 使用テキスト<br>速度 70wpm～100wpm<br>・辞書をひき、単語の適切な意味を見つめることができる。<br>・文中のS、Vを見つめることができる。<br>・文中の代名詞が何を指すか、わかる。<br>・等位接続詞が何を指しているかわかる。<br>・関係代名詞とその先行詞を見抜くことができる。 | 使用テキスト<br>速度 100wpm～120wpm<br>・文中のS、Vを見つめることができる。<br>・他動詞と離れた目的語を見つめることができる。<br>・等位接続詞が何を指しているかわかる。<br>・関係代名詞とその先行詞を見抜くことができる。<br>・文構造を把握することができる。         | 使用テキスト<br>速度 100wpm～150wpm以上<br>・スピードをもって長文に取り組み、論旨の流れを的確に把握できる。<br>・discourse makerに注目しながら、英文を読み、論理の展開を理解することができる。       |
| 「書くこと」         | 【英語基礎】<br>基本例文を暗唱することができる。<br>・フラッシュカードの英文100を暗唱する。<br>・基本例文テストを6点以上(10点満点中)得点できる。<br>【英Ⅰ】<br>・ALTから出されるジャーナルに取り組む。                                     | 【英語W】<br>・英語の文型をしっかりと理解して英文を書くことができる。<br>・正しい時制を使って、英文を書くことができる。<br>・適切な助動詞を用いて、自分の気持ちを表現することができる。<br>・関係詞を用いて、名詞を説明することができる。<br>・適切な接続詞を使って、文をつなげることができる。 | 目標:<br>・まとまった文章を英語で書くことができる。<br>・時間軸に沿って情報を配列することができる。<br>・「原因」と「結果」の因果関係に沿って、文と文をつなぐことができる。<br>・適切な接続詞を使って文と文をつなぐことができる。 |
| 語彙             | 目標習得語彙数:1500語～2000語<br>使用テキスト「DB1300」<br>目標:<br>・単語を正しく発音することができる。<br>・英語から日本語の意味がわかる。<br>・日本語から英語のスペルが書ける。<br>・辞書をひいて、文脈にあった意味を見つめることができる。             | 目標習得語彙数:2500語～3500語<br>使用テキスト「DB4500」<br>目標:<br>・単語の音、意味、スペルを一体化させるとともに、受容語彙数を増やす。<br>・語彙を用いて、英文を作ることができる。   | 目標習得語彙数:3000語～4000語<br>使用テキスト「DB4500」[NEXT STAGE]<br>目標:<br>・単語の意味を覚えるだけでなく、派生形を理解し、同義語や反対語がわかる。<br>・センター試験頻出のイディオムを理解する。 |
| 各種検定試験における到達目標 | 英検準2級など   | 英検準2級など  | 英検2級など  |

「学び合い」の精神で、教員研修の強化を図る

事業指定の最終年度を迎え、今年度は授業力向上実現に向けて、さらなる教員研修の強化を学校経営目標に掲げた。「全教員が行う研究授業や、大学教授を学力向上アドバイザーに迎えての公開授業、大学の講義参観、研究授業をビデオ録画して整理会の材料にするなど、今まで以上に盛り沢山の教員研修を予定しています」(諸角先生)

他に、7月と1月に実施している、生徒対象の授業評価アンケートも授業力向上に活用していく予定だ。

「努力した教員は、2回目のアンケートの結果が格段に向上します。そして、授業評価をよくするには、まず教員が学ばなくてはなりません。自分の授業スタイルを確認する、他教科の授業からヒントを得る、自分の教科について他の教員の授業から学ぶ、そしてマンネリ化の打破。教員間で学び合う精神で、今年度は授業力を強化していきたいと考えています」(井戸副校長)

石川県立野々市明倫高等学校

◇所在地:石川県石川郡野々市町下林3-309

◇沿革:1983年4月 開校  
2002年10月 創立20周年記念式

◇学級編成:[全日制] 普通科1・2年7クラス 3年6クラス

◇生徒数:780名(男子398名 女子382名) 2011年4月1日現在

◇特色:野々市町唯一の県立高校。「明倫」の名は、金沢兼六園南西部にあった藩校「明倫(人の道を明らかにすること)堂」に由来し、文武両道の人間育成を願っている。校訓は「聡く、正しく、遅く」。野球、サッカー、男女ソフトボール部が同時に練習できる県下に誇るグラウンドや5階建ての校舎でゆとりある特別教室を使用し、部活動に積極的に取り組んでいる。中でもフェンシング部、スキー部は全国大会に進出する実力。特にソフトボール部は、北信越地区の強豪としての実績を誇っている。

◇卒業生の進路:2011年3月卒業生 274名  
・進学先:四年制大学185名 短期大学32名 専門学校40名 就職その他17名  
・合格の内訳(延数):国公立大学35名 私立大学327名 短期大学51名 専門学校48名



## 校長がリーダーシップを発揮し 全教員の授業力向上を目指す

開智未来中学・高等学校は、さいたま市内の開智中学・高等学校（6年制）と開智高等学校（3年制）が実践する教育の成果を受け継ぎ、さらに新しい教育を開発する場として、2011年4月埼玉県加須市に開校した。

同校は関根均校長が開発した「サプリ」を教育の根幹に据え、「学び合い」や「4つの知性<sup>(※1)</sup>」の育成など、先進的な教育を実施している。そこで今回は、関根均校長に話を伺った。

### 学校全体の教育理念の根幹を成す 「学びのサプリ」

同校は、生徒に「学びのスキル」を計画的かつ総合的に身につけさせようと、日々の教育活動を通じて取り組んでいる。柔軟な中学・高校生の中に身につけた「学びのスキル」は、「生涯のスキル」とつながっていくという信念があるからだ。

「学びのスキル」を身につけさせるための規範となっているのが、関根校長が開発した「学びのサプリ」だ。同校HPにある「サプリの窓」<sup>(※2)</sup>によると、「サプリ」とは、「自分を伸ばす『自分の栄養』という意味で使っている言葉です」とある。つまり、個人が成長するために、どのような姿勢で、どのように行動するべきかをまとめたものである。



関根均校長

「学びのサプリ」は、県立高校や教育委員会での勤務を通じて授業の実践、見聞、考察、検証を繰り返し、高校生のための学習法としてまとめあげたテキストである。目的やねらいを意識する、全体像を把握するといった「4つの学習法」、メモを取る、質問するといった「6つの授業姿勢」な

ど学習方法に関するアドバイスはもちろん、さらに生活習慣など、よりよい学びを支える要素にも踏み込んだ内容となっている。

### 全教員の授業力向上を狙った 「教えのサプリ」

「学びのサプリ」を基として、小・中学生や保護者など、対象を変えて再構成したものも作成しており、その中で、教員を対象としたものが「教えのサプリ」である。テキストの内容は<図表1>の通りで、サプリの観点から「学びとは何か」「授業とは何か」「教えるとはどういうことか」などについてまとめている。また、Ⅳの「教育仕様書」は、Ⅰ～Ⅲの内容を踏まえて、同校における指導の方針を記したものである。同校では全ての教員が「教えのサプリ」に基づいて授業を行うこととしており、<図表2>のように、どの教科にも共通する内容が示されている。

校内研修などで関根校長が講師役を務める際には、メモをしっかりと取り、後日再確認するなど、教員に「生徒の立場になって受けてください」とお願いすることになっている。

「よく教える者はよく学ぶ者でなければなりません。これまで教員研修を行う中で、特に経験の長い教員に、講師と同じ『教える立場』で参加し、講師のアドバイスを耳を貸さない例も多く見ましたが、これでは改善につな

### <図表1>「教えのサプリ」目次

- Ⅰ. サプリを受ける姿勢づくり
- Ⅱ. 「学びとは何か」「教えるとは何か」「授業とは何か」
- Ⅲ. 授業力向上テキスト
  - 1 「授業」とは
  - 2 「授業力」とは
    - 第一カテゴリー（人間存在） ①生き方 ②身体表現
    - 第二カテゴリー（授業基礎力） ③授業話法 ④授業技術
    - 第三カテゴリー（教科力） ⑤専門性 ⑥授業開発力
- Ⅳ. 開智未来「教育仕様書」（指導のポイント）

(※1) 同校では①IT活用力などの未来型知性、②体験や行動を重んじた身体型知性、③暗誦教育に代表される伝統的知性、④学び合いなどによるコミュニケーション型知性を「4つの知性」とし、それらの知性をバランスよく培う授業を行うこととしている

(※2) サプリについての詳細は同校のHPの「サプリの窓」を参照 (<http://www.kaichimirai.ed.jp/>)

<図表2>「教へのサブリ」より

●6つの授業姿勢を徹底する  
『学びのサブリ』の「6つの授業姿勢」を学校全体で実行し、学習効果を高めます。6つの授業姿勢とは「①授業のねらいを確認する、②主体的にメモを取る、③授業に参加する・反応する、④明瞭な発声・発言・発表をする、⑤意欲的に質問する、⑥学習したことを振り返る」です。

| 授業姿勢 | 生徒の授業の受け方                         | 授業における教員の指導                                  |
|------|-----------------------------------|--|
| ねらい  | ①授業前に「本時のねらい」を予想<br>②「自分の目標」を確認する | ①授業開始時に「本時のねらい」を確認し徹底する(左上に板書して1時間掲示)        |
| メモ   | ①板書事項以外もメモをとる<br>②メモは必ず見直し加工する    | ①メモを促す、メモ書きさせる<br>②メモを取りやすい話法を行う             |
| 反応   | ①うなずく<br>②指示に速やかに反応する             | ①指示を明確にする(一言一指示の原則)<br>②反応しやすいようにコミュニケーションする |
| 発表   | ①大きく明瞭な声で発表する<br>②キーワードを意識する      | ①聞こえる声で発表させる(常に注意する)<br>②コミュニケーションな授業を展開する   |
| 質問   | ①質問事項を確認する<br>②まず自分で調べる、友だちに聞く    | ①質問する生徒の理解の状態を理解する<br>②生徒自身が正解を探そうにする        |
| 振り返り | ①授業後に授業内容を振り返る<br>②授業を自己評価する      | ①本時のまとめの中で振り返りを促す<br>②振り返りの時間を設定する(想起法)      |

●授業はバランスよい構成で行います  
生徒が伸びるためには「教わる」「自ら学ぶ」「学び合う」の3つの学びをバランスよく行うことが大切です。そこで、授業の中に「自ら学ぶ(思考させる)」と「学び合い」を適度に、適切に取り入れます。

| 3つの学び | 生徒の学習活動   | 教員の教育活動   |
|-------|---|---|
| 教わる   | ○「授業姿勢」を身に付ける<br>○質問の仕方を教える、質問させる   | ○「授業力」を向上させる<br>○「授業改善」を進める   |
| 自ら学ぶ  | ○考えて授業を聴く、授業中に能動的に活動する<br>○「独習」の姿勢を身に付ける<br>○自習室を正しく活用する<br>○家庭学習習慣を確立する<br>○学習計画を立てる | ○授業中に考える時間や問題を解く時間を設ける<br>○発問を投げかける<br>○勉強合宿で「集団独習」を行う<br>○自習室の利用方法を指導する<br>○学習計画を立てさせる |
| 学び合う  | ○「学び合いのスキル」を身に付ける<br>○「勉強ともだち」をつくる<br>○教え合う、競い合う                                      | ○「学習規範」を育成する<br>○「学び合い学習」を授業に導入する<br>○「学びの集団づくり」を進める                                    |

りません。授業力を高めるには、教えを受ける立場に立って、学び続けることが必要なのです」

関根校長は他の高校や塾などでも教員研修の講演を行うことがあるが、その際にも同様の心構えで研修に臨むことを求めているという。

**校長自らが「教へのサブリ」を体現しあらゆる場面で教員研修の機会とする**

同校は「サブリ」の考え方を教育活動の根幹に据えており、職員会議、教科会、普段の授業など、あらゆる場面で「教へのサブリ」に基づいた教員研修の機会となっている。その一部を紹介しよう。

●哲学の授業

毎週1回の全体ホームルームでは、校長自らが教壇に立ち、中学校・高校ごとに『哲学』の授業を行っている。こ

の授業では、生徒に対して「学びのサブリ」を伝えるとともに、学年の全教員が参加することを生かし、「教へのサブリ」を伝える教員研修の場ともなっている。

生徒に配布するプリントは校長の自作である。このプリントは、「教へのサブリ」で全教員に求めている「授業のねらいを明確化する」や「参考書や問題集を貼り合わせたような安直なプリントは作らない」といった指針に基づいて作成されている。『哲学』の授業のプリントが、同校で求められるプリントの見本ともなっている。

教員は生徒と肩を並べ、授業内容のメモをとりながら同時に生徒観察も行う。生徒の中に入れば、どんな授業展開が生徒を引き付けるか、どうしたら理解できるのかが、おのずと見えてくるからだ。

こうして『哲学』の授業を通じて、校長自ら「教へのサブリ」に基づいた授業を例示している。

●教科の指導

関根校長は、各教科の指導内容にも積極的に助言を行っている。例えば、同校では各教科が独立して授業を行うのではなく、他教科とのつながりを意識した「横断領域」をシラバスに明記することとしている<図表3>。この各教科で作成したシラバスを、

校長を始めとした管理職で「横断領域」を中心に精査し、すべての教育活動が構造的・総合的なものとなるよう、調整しているのだ。週に1回程度実施する教科会にも校長が出席し、同様の観点から助言を行うようにしている。

「中学校・高校では教科の壁ができがちですが、それでは『学び合い』や『4つの知性』の育成など、本校が全体で取り組んでいる教育が実現できません。そこで、教科の間を取り持つのも、特定の教科に属さない校長の仕事だと考えているのです」

●授業見学の推進

同校では、すべての授業をすべての教員が見られるようにしており、互いに積極的に授業見学を行っている。授業見学後には、授業のいいところを見つけて授業者に伝えるようにしている。これには、「教へのサブリ」で生徒のやる気を引き出す方法として掲げている「3める」①褒める

<図表3> 高校1年英語科シラバス(抜粋)

| 期   | 月  | おもな学習項目                    | 学習内容(ねらい)           | 生徒の活動  | 横断領域        | 4つの知性との関わり       |
|-----|----|----------------------------|---------------------|--|-------------|------------------|
| 二学期 | 11 | Reading 1                  | 英語の小説の読み方を学ぶグループワーク | ストーリーの続きを各班で考え、英文にまとめたものを発表                                  | 国語          | コミュニケーション・身体型    |
|     |    | Reading 2                  | グループワーク             | 班ごとにパートを決め、ナレーション形式で読み聞かせを発表する。スピーチコンテストとして優秀班を選出            |             | コミュニケーション・身体型    |
|     | 12 | Optional Lesson            | グループワーク             | 地球の地殻変動とプレートテクトニクスについてインターネットで調べ、東日本大震災の地震が起こったしくみを各班でレポート作成 | 理科<br>環境未来学 | 未来・コミュニケーション・身体型 |
|     |    | Optional Reading<br>(期末考査) | グループワーク             | クリスマス(サンタクロース)にまつわる世界の話を1つ選び、その内容についてレポートを作成。                |             | 未来・コミュニケーション型    |

②認める③求める(期待する、望む)を教員間で行うことで、生徒にどのように声をかければ効果があるのか、実感できるという効果もある。

詳細なレポートの作成などを求めると教員の負担が増大するため、意見や感想、アドバイスがあれば本人に口頭で伝えるようにしてきたが、5月からは他の先生からのコメントを蓄積するため、授業を見学して良いところを教員相互にシステム上に記名形式で投稿する「授業(相互)評価システム」の運用を始めた。集まった情報はデータベース化され、全教員が見られるようになっている。

関根校長も授業見学を積極的に行っており、1日2時間程度を授業見学に費やしている。教科書をなぞらえただけのような、生徒の立場に立って理解しにくいと感じた授業を行っている場合は、その場で内容に関する質問を投げかけることもあるという。

「授業内容を理解できないのは、生徒が真剣に聞いていないからだという教員がいますが、果たしてそうなのでしょう。生徒が理解できないのは、教員がきちんと教えられていないからです。本校の教員には、教員がきちんと説明できたかどうかではなく、一人ひとりの生徒ができるようになることを意識した授業をお願いします」

**さらなる授業力向上に挑戦し  
他校にも伝える**

今後の展望としては、次のようなものを考えている。

8月下旬には、開智学園の全教員を対象にした研修会を予定している。研修会の企画は開智未来中学・高等学校が中心となって行う。授業参観には3コマ分をあて、開智未来中学・高等学校の全教科の授業を公開する。

普段の授業においては、授業をビデオ撮影し、教員が自分や他の教員の授業を検証できるようにすることも考えている。また、授業評価アンケートを授業改善に活用することも検討している。ただアンケートをとるだけでなく、各クラスに「教科係」の生徒を任命し、アンケートの内容に基づいて、教科担任と授業内容を検討する機会も設ける予定だ。これは、「生徒も授業の構成者である」という同校の理念に基づいている。

さらに関根校長の目標は、外部で「学びのサプリ」や「教えのサプリ」に関する講演をこれまでと同様に精力的に行うとともに、管理職向けのサプリも研究・開発することだという。「教員生活30数年になりますが、今が一番楽しい。開智未来中学・高等学校で理想の教育を実現するとともに、本校での実践が他校の道標となり、日本の教育の向上に貢献できることを願っています」

**開智未来中学・高等学校**

◇所在地：埼玉県加須市妻倉 1238

◇沿革：2011年4月 開校

◇学級編成：一貫部(中高一貫クラス)3クラス 高等部(高校からの3年間教育)4クラス

◇生徒数：239名(中学1年113名 高校1年126名)

◇特色：教育理念は「人間が育つから学力が伸びる、学力が伸びるから人間が育つ」。関根均校長の教育哲学が、そのまま同校の理念となっている。週6日制を実施。職員室の隣には学び合いルームが設置されており、生徒どうしの教え合い、教員を交えての学びが積極的に行われている。また、大教室での独習の場も確保されており授業前の1時間半、放課後は19:45まで校内を開放している。